

代わりの先生が来ない!

異常事態! 産休でも未配置

先生が産休に入っても代わりの先生が来ない——あつてはならない事態が起こっています(柏市内だけで、昨年10月1日時点で5人)。病気などで長期に休む教員が出て、なかなか代わりの先生が配置されないことはこれまででもありました。しかし、半年以上前から分かっている産休補助教員が配置されないことはありませんでした。若い先生の比率が高まっており、このままでは産休補助教員の未配置は今後さらに増えることが予想されます。

今の異常な状態が続けば、教職員の多忙化・超過勤務はいつそう深刻になり、子どもたちにきめ細かな教育をするうえで大きな影響が出ます。

共産党市議団は、産休補助教員が

市教育長「定数の改善、教員増が必要」と答弁



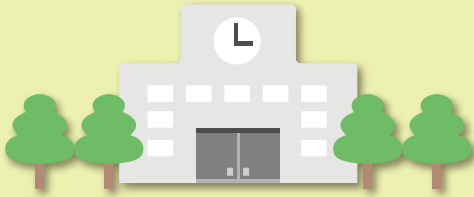
産休補助教員が未配置の学校で
事情を聴く加藤県議(中央)と市議団

未配置の小学校を訪問し校長先生から直接事情を聴き、12月議会で教育委員会にこの問題の解決を求めました。教育長は「教員定数を改善し、教員を増やすことが必要」と答弁しました。

責任は県教委に

千葉県内では150人を超える教員が未配置になっています(昨年12月1日現在)。教員を採用し各学校に配置するのは千葉県教育委員会の責任です。その千葉県が必要な正規教員を採用していないことが最大の原因です。加藤英雄県議は12月県議会で柏市を含む教員未配置問題について質問し、県が正規教員を定数通り採用すること、産休や病休をとる教員がいても、すぐに対応できる教員を千葉県の責任で採用するよう求めました。

日本共産党柏市議団は、子どもたちへの行き届いた教育を保障し、社会問題となっている教員の働き方改革を進めるために、加藤県議と連携し、教員未配置問題の解決のため取り組みます。



民間委託で市民に負担増!

ら8億3600万円へ2600万円の引き上げです(12月議会

「民間に委ねれば経費が削減され、サービスがよくなる」として導入された指定管理者制度の矛盾が噴出しています。柏市がスポーツ施設の管理運営を民間委託(指定管理者制度)にしてから、利用料金はどんどん値上げされています。さらに、業者に支払われる指定管理料も、前回の8億1000万円から

契約更新のたびに料金値上げ

	幼児体育室(貸し切り・一般)	新十余二第二公園テニスコート(一般)	松葉第一近隣公園運動場(一般)
直営	0	520円	590円
前指定管理者	980円	780円	880円
現指定管理者	1,000円	800円	1,100円
今回の提案額	1,200円	1,000円	1,300円

で可決)。いったい何のための民間委託なのでしょう。日本共産党は、管理運営を直営に戻すことを主張しています。

共産党が予算要望

日本共産党柏市議団は昨年11月、秋山市長に「2019年度予算要望書」を提出し、市民要求を実現するよう市長と懇談を行いました。

の責任であり、企業のもうけの対象にしてはなりません。共産党は「民営化は決して進むべき方向ではない」と市の姿勢をたがしました。柏市水道管理者は、「柏市の水道事業は現在のところ経営が安定しており、広域化も民営化も検討の予定はない」と答弁しました。

日本共産党は水道の民営化に反対し、今後の柏市の動向を監視していきます。

請願65%を採択

12月議会に提出された請願の26項目のうち、17項目が賛成多数で採択されました。1面掲載の通り「消費税増税の中止を求める意見書」「学校給食無料化と教育費負担の軽減」「医療費の助成を高校卒業まで」の請願も採択されました。

消費税増税の中止を求めた請願が柏市議会で採択されたことは画期的です。旧民主党系の会派が賛成に回ったため、国政での野党共闘の前進の反映です。ただ、国への意見書の送付は全会一致の場合とする申し合わせがあり、意見書は送付されません。

日本共産党は、学校給食の無料化、高校卒業までの医療費助成を実現するための条例提案をすべての会派に呼びかけるものです。

水道民営化は世界の流れに逆行

「検討の予定ない」と市が答弁

先の臨時国会で強行された水道法の改悪は、自治体に「水道の広域化と民営化」を促すものです。

これは、世界の流れに逆行するものです。民営化によって水道料金の高騰、水質とサービスの低下、設備投資逃れなどが起り、最近の調査ではフランス、アメリカなど32カ国が再公営化しています。安全・安価な水の供給は行政